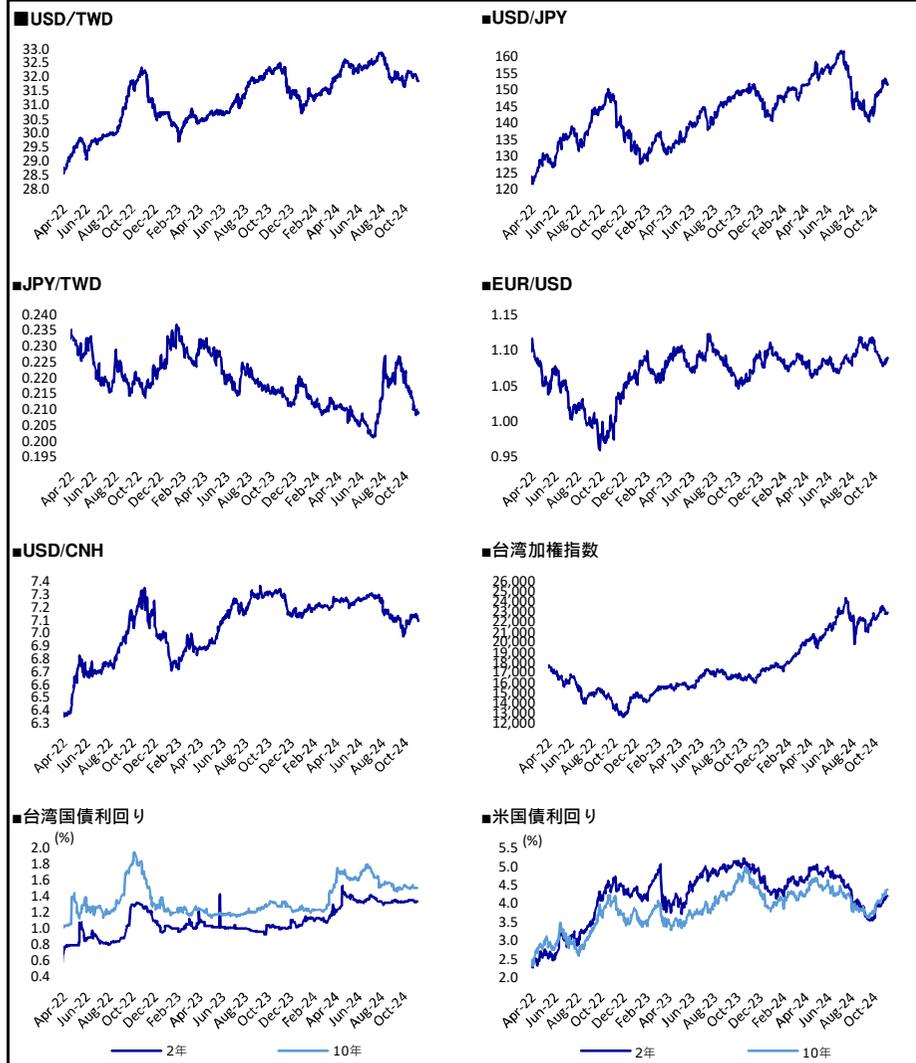


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初11/4は31.910でオープン後、先週末に発表された米非農業部門雇用者数が市場予想を下回る結果となったことを受けて米労働市場の減速が懸念された他、輸出業者による外貨売りが見られたことにより、台湾ドル買いが優勢な展開に。11/5は、米大統領選挙を控え、ポジション調整らしき動きからドル/台湾ドルは31.908まで下落。11/6は、米大統領選の開票状況を伝える報道が相次ぐ中、米金利が上昇し、ドル買いが優勢な展開となり、32.242まで上昇。11/7は、グローバルにドル買い圧力が掛かり、一時32.320まで上昇。しかしその後、輸出企業によるドル売りが見られ、32.250近辺まで下落。11/8は、トランプトレードの巻き戻しから、ドル売りが進み、32.035まで下落。午後、ドルが買い戻され、ドル/台湾ドルは32.10台前半まで上昇。最終的には前週比0.46%ドル高台湾ドル安の32.115で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は110.2億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初11/4は152.15でオープン後、東京休日で市場参加者が少ない中、ドル/円はアジア時間午前中を通して円高基調で推移し、151円台後半まで下落。その後、トランプトレードの巻き戻しから、ドル売りが進み、151円前半まで下落した。11/5は、米大統領選の結果を控え、152円台前半で揉み合いの推移。海外時間に発表された米9月貿易赤字が予想以上に悪化した事を背景に、ドル売りが強まり、151.80付近まで下落。続いて発表された米10月ISM非製造業景況指数が予想を上回った事が好感され、152.20近辺まで反発。11/6は、米大統領選にてトランプ氏が優勢との見方が広がる中、アジア通貨全般に売り圧力が掛かり、一時154.38まで上昇。その後、トランプ氏が勝利宣言を行ったことを受けて、ドル買いが継続し、154.00近辺で底堅く推移。11/7は、米国での減税、規制緩和への期待が高まる中、ドル買いが優勢な展開となり一時154.71まで上昇。その後、三村淳財務官より「行き過ぎた動きに対しては適切な対応をとる」との発言が聞かれたことで、円が買い戻され153円台後半まで下落。11/8は、加藤財務相は過度な為替変動は好ましくないとの発言を受け、市場参加者の介入警戒感が高まり、ドル高が一服した後、概ね153円台前半で推移した。最終的には前週比0.23%ドル安円高の152.65で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.900-32.300
今週は揉み合いの推移を見込む。重要イベントを通過し、トランプ氏の政策動向やインフレ指標に注目が集まる中、ドル/台湾ドルは揉み合いの推移となるであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：151.50-154.00
今週のドル/円は揉み合いの推移を見込む。週初に発表された日銀の金融政策会議事録では、時期に対する見方は割れたものの、景気及びインフレ状況が予想通り続く限り、利上げを継続する考えを示した。また、今週中に発表される予定のインフレ関連指数に注目が集まるだろう。

今週の予定

11/11 (MON)	日本9月経常収支
11/12 (TUE)	
11/13 (WED)	日本10月ホールセール物価指数、米国10月CPI
11/14 (THU)	米国10月PPI
11/15 (FRI)	日本Q3GDP、英国Q3GDP、米国10月輸入物価、小売売上高、鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。